

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 5年 12月 25日

事業所名:放課後デイサービスピーす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分なスペースは確保している。	はい・・・9名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・2名	今後も安全に配慮し整備に努め、活動に合わせた十分なスペースを確保していく。
	2 職員の適切な配置	人員基準を遵守し、有資格者も配置している。	はい・・・8名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・3名	引き続き、必要な人員配置を維持していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	棚や備品は重ならないよう配置し、フロア内に凹凸が作らないよう整備している。室内もイラストなどで分かりやすく表示している。	はい・・・9名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・2名	現状を維持できるように、今後も安全に配慮した環境整備に努めていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃・備品整備は毎日実施している。備品も定期的に消毒を行い、衛生面にも配慮している。	はい・・・10名 わからない・・・2名	現状を維持し、子どもたちが心地よく過ごせる空間の確保に努めていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	支援内容や業務については職員間で常に意見交換やミーティングを行っている。		職員間の連携を深め、日々の業務の振り返りや業務に対する意識向上を図っていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者に評価は受けていない。		外部評価は活用していないが、良質なサービス提供ができるよう、質の向上を図っていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内で定期的に研修を実施し、スキルアップを図っている。		今後も研修の機会を設け、職員たちの意識改善・向上を図っていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	6か月毎にアセスメントを実施。支援課題について個別支援会議を行い、計画を作成している。		今後も保護者のニーズに沿った、計画の作成に努めていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子ども一人一人の特性を踏まえて、個別・集団の活動支援計画を作成している。	はい・・・11名 わからない・・・1名	特性に配慮した個々の課題、社会性を育むための集団支援を組み合わせ、個別支援計画の作成に努めていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画書の具体的な支援内容を記載し、保護者の同意を得ている。		子どもたち特性に合わせた支援と具体的な支援内容を設定し、必要な支援項目の選択肢を検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画の内容は職員全員の共通認識とし、計画に沿った支援の実施をしている。	はい・・・11名 わからない・・・1名	今後も継続的な課題考察を行い、計画に沿った適切な支援を行っていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員間でこまめに企画会議を実施し、活動プログラムの立案をしている。		職員間で意見交換をしながら、目的やねらいを明確にした活動プログラムの作成を今後も行っていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日・長期休暇は活動プログラムを充実させる支援の工夫をしている。	はい・・・11名 わからない・・・1名	休日は利用時間が長くなるので、子どもたちの興味や関心を引き出せるプログラムの充実に努めていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	自由遊びの時間も取り入れながら、プログラムにメリハリができるよう工夫している。		子どもたちの意見も取り入れながら、プログラムの改善を加えていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	職員の役割は当日朝に確認し、特に注意が必要な事項についてはその都度、報告共有し連携をとっている。		現状を維持していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	当日または翌日朝までに職員間で共有している。		気付きや引継ぎはこまめにお行い、報告・連絡・相談を今後も徹底していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個々の支援経過記録票に記録し、記入者以外の職員も記入内容を確認している。		記録を活用し、職員間の共通認識を図り、支援に対する振り返りと見直しを今後も行っていく。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月毎にモニタリングを実施している。職員同士で意見交換しながら、計画内容の見直しもしている。		現状を維持していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者が出席している。		今後は児発管のみに限らず、現場職員にも参加を促し、関係機関との連携した支援に努めていけるようにしていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	対象となる方のご利用はありません。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	対象となる方のご利用はありません。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	現状はできていない。		相談支援事業所と連携し、学校の支援内容や様子等を共有していく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	併設している就労支援事業所には情報提供している。		他の事業所からご依頼があればその都度、協力体制をとっていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関での基礎研修や更新研修等は条件に応じて受講している。		受講条件が合えば、今後も積極的に参加を促す。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	特別な交流や活動の共有をしていない。	はい・・・5名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・5名	検討課題としていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	従来から地域住民の方を行事へご招待する等、交流していない。		検討課題としていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時、個別支援計画書交付時に詳細説明をしている。支援内容については、日々の送迎時にもお伝えしている。	はい・・・11名 わからない・・・1名	今後も分かりやすい説明を心がけ、ご質問・ご要望には随時対応していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画の目標及び、支援内容は保護者に説明している。	はい・・・11名 わからない・・・1名	今後も分かりやすく丁寧な説明を心がけていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアトレーニングは行っていない。保護者から相談を受けた場合はその都度、対応している。	はい・・・8名 いいえ・・・1名 わからない・・・3名	ご相談に対しては迅速に対応に当たり、支援方法を一緒に考えていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時、必要に応じて電話でもコミュニケーションを取り、共通理解を深めている。	はい・・・9名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・2名	日々の様子は連絡帳を活用し、必要に応じて送迎時にも口頭でお伝えし、保護者との共通理解を深めていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	日常生活面や進路に関するご相談が多く、随時対応している。	はい・・・10名 わからない・・・2名	今後も保護者と職員とで相談しやすい関係を構築できるよう対応に努めていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現状は実施していない。	はい・・・5名 いいえ・・・2名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・4名	検討課題としていく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	窓口担当者・解決責任者を設置、重要事項説明書に明示している。契約時に説明している。	はい・・・9名 わからない・・・3名	今後も苦情には迅速に誠意をもって対応に当たり、検証・解決・再発防止に努めていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カードなど特性に合わせてツールを使用している。保護者にも使用するツール等は説明と同意を得ている。	はい・・・11名 どちらともいえない・・・1名	今後も特性に配慮したツールの使用や情報伝達に努めていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、通信を発行している。不定期ではあるが、SNSにも活動様子を発信し、行事予定等は別途、お知らせを配布している。	はい・・・11名 わからない・・・1名	今後も情報発信を行い、活動内容の周知・理解を広げていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の保護に努め、取り扱いには十分配慮している。	はい・・・10名 わからない・・・2名	現状を維持していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応、防犯・感染症対応マニュアルは整備している。	はい・・・9名 わからない・・・3名	対応マニュアルは整備しているので、必要に応じて簡易資料を配布する等、周知方法を工夫していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難確保計画を作成し尼崎市へ報告している。今年度は地震を想定した避難訓練を実施した。	はい・・・9名 わからない・・・3名	年に2回避難訓練を実施している。実施内容を基に反省や改善点を見つけ、今後の避難訓練に活かしていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	障害者虐待防止マニュアルに基づき、事業所に内で研修を実施している。		今後も研修の機会を設け、職員の意識向上に努めていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束を行っていない。		身体拘束を行わない。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	おやつ提供をしているので、利用開始までに事前にアレルギーの有無を保護者に確認し、職員間でも周知徹底している。		今後も保護者からの聞き取りを怠らず、職員間での周知徹底を図り、安全に配慮した提供を行う。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例が起こった際は、速やかに報告書を作成し、職員全員で回覧し共有している。		事故防止の為、事例検討をした上で職員間で反省・改善を話し合っていく。